

勝瀬中学校区 小中一貫教育の取組

1 研究テーマ

9年間で一貫した児童生徒の育成

2 目指す児童生徒像

主体的に学び、
心豊かに思いやりのある児童生徒



小中合同あいさつ運動

3 乗り入れ授業を行っている教科領域

小学校6年の算数少人数指導（中学校数学科教員が週1回）

※令和2年度は中学校理科教員が小学校に出向き、週1回の授業参加（兼務指導）を予定している。

4 カリキュラム編成に手を掛けている教科領域

道徳の授業・評価のあり方を中心に検討中。

5 行っている交流事業

- ① 合唱鑑賞会（11月）・・・勝瀬小・ふじみ野小6年生が中学校を訪れ、体育館で合唱を披露し合う。小学校は6年生全員。中学校は、各学年の金賞受賞クラスが参加。



合唱鑑賞会

- ② 小中合同あいさつ運動（年2回）・・・中学生代表生徒が朝小学校の校門前に立ち、小学生の代表生徒ともにあいさつ運動を実施。

6 今年度の成果と課題

【成果】

今年度は道徳の指導と評価の研究をした。小学校で先行していた道徳の教科化について中学校と情報を共有することで、指導力の向上を図った。同時に、文章表記の評価について情報共有し、整理することができた。このことにより、9年間で一貫した道徳教育を展開する礎となった。中学校では小学校の文章表記を参考に、「文章による評価」をデータベース化し、効率的で効果的な評価システムを構築できた。

中学校数学科の教員が毎週小学校に出向くことで、学校ごとの違い、学級ごとの違いも如実に知ることができた。また、児童の様子を中学校進学一年前から見続けることで、中1ギャップを生まない「滑らかな接続」の一助となった。

小中合同あいさつ運動では、小中学生お互いがそれぞれ背伸びをし合い、成長へとつながっていた。また、合唱発表会では小学生にとって初めての中学校で、学級担任と徒歩で中学校に行くだけで緊張感があり、貴重な経験となった。また、小学生の合唱と中学生の合唱はそれぞれ魅力が異なり、お互いに良さを認め合えるすばらしい場となった。



小中合同あいさつ運動

【課題】

小中一貫教育の具体化に向けては、鶴瀬小も巻き込まなければならない関係から、困難もあり、富士見台中学校区とも拡大連携し、詳細を詰めていかなければならない。また、小学生が安心して中学校に進学できる「滑らかな接続」を実現できるよう、児童生徒の交流の機会をさらに増やしていきたい。新型コロナウイルスの関係で難しくなってしまうが、運動会や体育祭での交流を企画していきたい。